

平成30年度大学院地球社会統合科学府

修士課程（夏季）入学試験

入学試験問題

⑩ 言語コミュニケーション・言語教育

注意事項

1. 問題は「はじめ」の合図があるまで開けないこと。
2. 試験開始後、解答用紙に受験番号等を明記すること。
3. 解答用紙は、必ず全部提出すること。
4. 問題冊子は持ち帰ってよい。
5. 指定の解答用紙を用いること。

【共通問題】

問1. 次の1～18から6つ選び、それぞれ具体例を挙げて説明しなさい。

(20点×6=120点)

1. 自称詞
2. 借用語
3. 撥音便と促音便
4. 混成語
5. 同化規則
6. 内容語と機能語
7. 迷惑の受身
8. 証拠性 (evidentiality)
9. 心的辞書 (Mental lexicon)
10. JSL と JFL
11. ムードル (Moodel)
12. 言語学習におけるビリーフ (belief)
13. スピーチにおける伝達要素 (Delivery)
14. 語りの忠実さ (Narrative Fidelity)
15. 合成の虚偽 (Fallacy of Composition)
16. リンガフランカ (lingua franca)
17. コミュニケーション・ストラテジー (communication strategy)
18. コミュニティ・ランゲージ・ラーニング (community language learning)

【選択問題】

問2. 次のⅠ～Ⅷから2つ選び、それぞれについて解答しなさい。選んだ問題の番号を解答用紙に書きなさい。(40点×2=80点)

Ⅰ ポライトネスに関する以下の(1)(2)の問いに答えなさい。(40点)

(1) Brown and Levinson (1987) のポジティブ・ポライトネス、ネガティブ・ポライトネスについて、具体例を挙げながら説明しなさい。(20点)

(2) 上記の理論では説明できないポライトネスには、どのようなものがあると考えられるか。具体例を挙げて論じなさい。(20点)

Ⅱ 外国語学習者が外国語を習得している段階で現れる化石化 (fossilization) の定義とその原因について自分の考えを述べなさい。(40点)

Ⅲ 音韻論に関する以下の (1) (2) (3) の問いに答えなさい。(40 点)

(1) ①～⑤に入る最も適切なことばは何か、それぞれ答えなさい。ただし、同じ記号には同じことばが入ります。(各 2 点×5=10 点)

音韻論的な対立をしている音素が、特定の環境において、その対立を失うことを (①) と言う。プラーグ学派では、(①) が生じた位置に現れる音声を (②) の実現と考える。(②) と類似した概念としては、モスクワ学派の (③) があるが、ある環境において、ひとつでも (①) が認められれば、すべての音素を各々 (③) と見做すという点において、プラーグ学派の (②) の考え方と異なる。

(①) の一種で、母音体系内の各母音がいくつかの群に分かれ、特定の形態論的単位の中においては、同一の群に属する母音しか共起しないことを (④) と言う。(④) には、その関与する特徴によって、前舌/後舌、円唇/非円唇、(⑤) /非 (⑤)、高/低、の 4 つのタイプがある。

(2) トルベツコイ (N. S. Trubetzkoy) の言う、言語音のもつ 3 機能について、具体例を挙げつつ、説明しなさい。(15 点)

(3) 「多型アクセント」、「N 型アクセント」、「一型アクセント」とはそれぞれどのようなものか、現代日本語の具体的な方言の例を挙げつつ、説明しなさい。(15 点)

Ⅳ 教育ディベート (Academic Debate) において議論の根拠として用いられる証拠資料 (Evidence) の評価について、次の (1) (2) それぞれの観点から具体的な例を挙げて論じなさい。(40 点)

(1) 一般的にはより新しいものが良いとされている。それはなぜか。また、年代が新しいものが良いとは言えない場合がある。それはどのような場合で、なぜか。(20 点)

(2) 専門家の意見を引用する場合は、一般的には内容に関連する分野の専門家の発言が信頼できるとされている。それはなぜか。また、関連する分野の専門家の発言が必ずしも信頼できない場合がある。それはどのような場合で、なぜか。(20 点)

Ⅴ 現行の大学入試センター試験に代わり、2020 年度から始まる「大学入学共通テスト」の実施方針が先月発表されました。英語については、民間試験を活用することで 4 技能を評価する一方、大学入試センターが作る試験も 2023 年度まで残し、併用するという事です。これに関連する以下 (1) (2) の問いに答えなさい。(40 点)

(1) 英語の新しい入試制度について、あなたが知っていることを詳細に述べなさい。その際、現行の大学入試センター試験 (英語) の問題点と 4 技能の関連についても含んでください。(20 点)

(2) 英語の新しい入試制度について、試験の妥当性・信頼性・実用性（実施可能性）・公平性それぞれの観点から、2020年度からの新しい入試制度（英語）について論じなさい。

(5点×4=20点)

VI 除去的二言語使用（Subtractive Bilingualism）について、その定義と具体的事例を述べなさい。（40点）

VII 以下の（1）（2）（3）の問いに答えなさい。（40点）

(1) 「時制（tense）とは何か」、「相（aspect）とは何か」について、具体例をあげながら簡潔に説明しなさい。（5点×2=10点）

(2) (1)を踏まえ、あなたの母語の時制・相の体系について、具体例をあげながら簡潔に論じなさい。（10点）

(3) Zeno Vendler の動詞分類と金田一春彦の動詞分類について具体例をあげながら簡潔に論じなさい。（20点）

VIII 日本語コースのデザインを策定する際には考慮しなければならない項目がいくつかあります。これに関連する以下（1）（2）の問いに答えなさい。（40点）

(1) カリキュラムとシラバスはどのように異なるのか、また、どのように関連しているのか、その違いと関連性を具体的に説明しなさい。（20点）

(2) 大学や日本語学校など、学校型の日本語教育と、地域のボランティア日本語教室など地域型の日本語教育では、コースデザインにおいて、どのような点が最も異なるのか、その違いを具体的に説明しなさい。（20点）